

平成28年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成29年10月31日
評価担当者職・氏名	-

事業名	1 広報宣伝事業					
事業の目的	新聞広告によるチャグチャグ馬コ(岩手日報), 盛岡さんさ踊り・盛岡秋まつり(岩手日報・盛岡タイムス)など各種観光事業の宣伝及びホームページへの新着情報, 各事業情報の随時更新を行い, 県内に情報発信を行う。					
事業の内容	観光イベント等情報の新聞広告掲載を行うほか, インターネットを活用し観光情報を収集・発信する。					
事業の必要性	観光振興のため最新の情報発信により市民の利便に資する。					
成果指標	対 象	①新聞掲載回数, ②ホームページ(http://hellomorioka.jp)訪問回数				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		①7回, ②118,901回	①5回, ②138,589回	①2回, ②153,861回	① 4回, ②178,912回	
経常費用(円) (人件費, 賃金, 福利を除く)	経常費用計	752,007	1,118,654	639,570	631,777	
	(内訳)					
	通信運搬費	61,507	74,243	45,710	41,617	
	委託費	652,750	641,960	592,920	586,720	
	その他	37,750	402,451	940	3,440	

事業の必要性の評価(実施目的の適正性)

各種広報媒体を使って広く情報発信し, 旅行候補地選択の機会に位置を占め, 誘客につながることから実施目的は適正である。

役割分担の適正性の評価

協会は観光に関する様々な情報を保有しているが, 盛岡特有の立地条件すなわち北東北のゲートウェイであることを生かし, 東北エリア・盛岡広域圏及び三陸方面の総合的な情報提供に貢献しており, 役割として適正である。

事業の有効性の評価

ホームページへのアクセス状況も好調で, 震災復興を引き続き後押しできるよう, 県央からの観光情報の提供を続けている。また, 本年度からバナー広告を設置し, 観光等についてより多様な情報を提供するよう努めており有効である。

経費の評価

最低限の経費と人員で実施しておりコストの効率性は高い。経費削減は情報提供量の低下に直結する。

今後の取組み方針(課題の解決策)

県外へのPRを強化し一層の誘客に結びつけるため, 事業予算の拡大が望まれる。

観光コンベンション部長意見

宣伝告知によって行事事業への来場者数は大きく影響するので, 少しでも多くの箇所にアピールすることが大切です。今後も資金を確保し情報発信量の充実に努めること。

平成28年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成29年10月31日
評価担当者職・氏名	

事業名	2 観光案内事業					
事業の目的	盛岡を訪れる観光客に盛岡のまち並みや見どころを丁寧に案内し、盛岡の魅力を楽しんでいただくことにより観光振興を図る。					
事業の内容	盛岡ふるさとガイド(市民ボランティアガイド)が、盛岡の魅力的な見どころを組み込んだ「啄木・賢治青春の道」、「先人と町家の道」などのコースについて、歩いて案内し観光を楽しんでいただく事業である。					
事業の必要性	盛岡を訪れてくれた観光客に、魅力ある観光案内を行い、リピーターを含め観光客の増加を図り、地域経済の発展につなげる必要がある。					
成果指標	対 象	ふるさとガイドによる案内客数				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常費用 (円)(人件 費, 賃金, 福 利を除く)	経常費用計	1,245,053	1,103,510	1,100,818	1,249,582	
	(内訳)					
	諸謝金	260,000	200,200	194,000	224,000	
	支払助成金	150,000	150,000	150,000	100,000	
	委託費	640,000	640,000	640,000	640,000	
	その他	195,053	113,310	116,818	285,582	

事業の必要性の評価(実施目的の適正性)

盛岡を訪れる旅行者に地元民がかかわることでより一層密度の高い観光を楽しんでもらうことは、ツーリストの充足度を高め、その評判により誘客につながることから実施目的は適切である。

役割分担の適正性の評価

街歩きコースの開拓、盛岡ふるさとガイドの育成など当協会ならではの取組みに加え、盛岡広域の団体旅行観光・コンベンション振興にも貢献しており適正な役割である。

事業の有効性の評価

盛岡市内で国内客を対象とする観光客専門のガイドとしてはほぼ唯一の存在で、他府県からの教育旅行では、市中自主研修ガイドの役割を多年にわたって担っており、平成29年度には案内者数30,000人を達成するなど増加傾向にあることから成果が出ている。

経費の評価

有料ボランティアガイドとして、低廉な価格でのガイド商品となっており、また、一方、盛岡さんさ踊り、盛岡秋まつり等のイベント時には、ガイド団体側が無料観光ガイドを行うなど、費用対効果の高い運営を行っている。

今後の取組み方針(課題の解決策)

他県では、予約なし・現場でまちなかにおいて即ガイド活動をする事例が好評を得ている。また、増加する外国人観光客へのガイド対応の有償・無償対応の問題、善意通訳ガイドとの協力・棲み分けなど、今後関係諸機関との協議を通して有効活用のさらなる工夫・対応が望まれる。

観光コンベンション部長意見

歩いて楽しむまち盛岡をキャッチフレーズに、引続きふるさとガイドを活用し盛岡の魅力をアピールする。また、ふるさとガイドの直前申込みができるよう検討する。

平成28年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成29年10月31日
評価担当者職・氏名	

事業名	3 観光客誘致促進事業 6 観光資源活用事業				
事業の目的	盛岡及び盛岡広域圏への誘客を推進する				
事業の内容	誘致キャンペーンにおけるPR活動及び誘客活動並びに各種イベント実施団体に対する支援を行い集客を図る。また、盛岡市東京事務所などと連携し地元の観光資源をPRする。				
事業の必要性	地域の活性化と経済効果を促進するために機会を捉えたPRや国内外における誘客活動が必要である。そのため、大型キャンペーンや首都圏での観光PRを行うほか、教育旅行及び外国人旅行者の誘致のため県外、国外の観光博覧会等に職員を派遣し、エージェンなどに対し観光資源のPR活動を行う。さらには冬季イベントなどを支援することにより年間を通じた誘客を図る。				
成果指標	対 象	教育旅行, 国内外観光客誘致の活動回数			
		平成25年度 6回	平成26年度 11回	平成27年度 16回	平成28年度 24回
経常費用(円) (人件費, 賃金, 福利を除く)	経常費用計 (内訳)	2,946,469	3,020,485	1,102,626	1,531,979
	旅費交通費	1,096,110	1,281,305	248,732	331,120
	印刷製本費	314,685	610,870	16,200	16,414
	諸謝金	200,000	79,040	66,000	84,000
	支払負担金	934,000	573,500	474,000	474,000
	その他	401,674	475,770	297,694	626,445

事業の必要性の評価(実施目的の適正性)

観光客誘致を進めるためには、仲介者である旅行代理店・同団体仕入れセンターへの売り込み、主催者である学校等への直接営業活動が必須であり、事業目的として適切である。

役割分担の適正性の評価

協会は国内外にPRできる盛岡広域の観光情報や誘致活動を熟知した人材を保有しており、本事業の実施に最適の団体である。

事業の有効性の評価

教育旅行でのふるさとガイドの利用実績が高需要であるとともに、さんさ踊り体験が山車引き手体験に派生している。また、増加する国・東北運輸局主導の中国等国外旅行代理店との商談会にも欠かさず出席して都度誘致素材を提供して成果を目指しており、一定の役割を果たしている。

経費の評価

最低限の経費と人員で活動を行っているが、営業活動経費を増加させることにより、さらに効果は高まると思われる。

今後の取組み方針(課題の解決策)

教育旅行誘致は、新幹線開通の北海道エリアのみならず、いわて・花巻空港利用促進の観点からも、台湾の高校生招致交流などにも拡充する方策をさぐりたい。

観光コンベンション部長意見

- ・今後も首都圏を中心にPR活動を広げること、教育旅行及び外国人旅行者の誘致活動も広めていくこと。
- ・今後もバス会社、エージェン等と協力して大型キャンペーンに参加し盛岡の魅力をアピールすること。

平成28年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成29年10月31日
評価担当者職・氏名	

事業名	4 まつり行事振興事業				
事業の目的	各種まつり、伝統行事を育成し、県内外に広くPRすることにより、観光振興を図る。				
事業の内容	各種まつり、伝統行事への支援、助成及び告知宣伝を行う。				
事業の必要性	観光振興を図るため、盛岡を全国にPRできるまつり・伝統行事について、県内外から是非見たい、参加したいと思っただけのPRと機会を作る必要がある。また、市民に地元のまつりの魅力を味わってもらうことが伝統文化の継承にもつながる。従って、まつり・伝統行事を育成、継承していくためにも支援・助成及び宣伝を行う。				
成果指標	対 象	支援・助成したまつり行事数			
		平成25年度 10件	平成26年度 14件	平成27年度 14件	平成28年度 13件
経常費用 (円) (人件費、賃金、福利を除く)	経常費用計	1,688,453	1,300,080	1,299,864	1,309,864
	(内訳)				
	消耗品費	385,068	0		0
	支払負担金	857,000	857,000	857,000	867,000
	支払助成金	445,000	442,000	442,000	442,000
	その他	1,385	1,080	864	864

事業の必要性の評価(実施目的の適正性)	
まつり、伝統行事を育成、継承、PRすることは、誘客につながり観光振興が図られることから適切である。	
役割分担の適正性の評価	
当協会の持つノウハウと人材を活用し、地域の観光資源を有効にPRするため、役割として適正である。しかし、秋まつりの山車運行事業の準備は、数人の職員を2か月程度投入しなければならない事務量であることから、関係団体と業務分担を協議する必要がある。	
事業の有効性の評価	
支援、助成及び宣伝効果により各行事の運営がスムーズに行われ成果は上がっている。	
経費の評価	
最低限の経費と人員で実施しておりコストの効率性は高い。	

今後の取組み方針(課題の解決策)	
山車運行に係る準備及運行当日の業務については、業務全体の効率化を検討するとともに、今後の運営の在り方、役割分担等について関係機関と協議する。	

観光コンベンション部長意見

- ・引き続き市内の各種まつり事業に参加・協力し、観光客誘致に努めること。
- ・盛岡秋まつり(山車)については、首都圏をはじめインバウンドを見据えたPR活動を行うとともに、衣装の貸与など市民が参加しやすい環境づくりを検討する必要がある。

平成28年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成29年10月31日
評価担当者職・氏名	

事業名	5 ブランド振興事業(フィルムコミッション事業・観光土産品推奨事業)				
事業の目的	盛岡市及び盛岡広域の魅力地元ブランドとして、テレビ、CM、映画等映像を通じて全国にPRし、誘客を図り観光振興につなげる。 また、公益財団法人岩手県観光協会が主催する観光土産品推奨・審査制度を活用し、優良な土産品(ブランド品)生産の振興を図る。(※岩手県観光協会主催の観光土産品推奨は当初の目的達成により平成29年12月末日で終了となる。これにより平成28年度から新規推奨は終了となる。)				
事業の内容	映像製作関係者にロケ適地を紹介するほか、ロケ隊の現地案内、撮影許可支援等を行いテレビ・CM・映画等のロケを誘致するほか、新規ロケ候補地を開拓することでブランド力を強化する。 また、優良な土産品生産の振興を図るため、公益財団法人岩手県観光協会が主催する観光土産品推奨・審査制度を広く周知し、制度の活用を促す。(※平成29年度12月末日で推奨終了につき、平成28年度においては、推奨品のある会社(賛助会員)に推奨終了の旨を書面で通知した。)				
事業の必要性	全国的にテレビ、映画等を通じて各地の観光資源が紹介されるなか、当地域としても特色ある観光資源を映像を通じて効果的にPRし、知名度を高め、誘客による地域の活性化を図る必要がある。そのため、映像制作関係者に誘致を働き掛けるものである。 観光客等に優良な土産品を提供することは、盛岡及び盛岡広域について好印象を与え、リピーターにもつながる。(※平成29年度12月末日で推奨終了)				
成果指標	件数:①ロケ支援 ②岩手県観光協会に対する観光土産品推奨				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
		① 48件 ② 6件	① 64件 ② 9件	① 63件 ② 8件	① 70件 ② 0件
経常費用(円) (人件費、賃金、福利を除く)	経常費用計	232,500	205,696	233,677	235,529
	(内訳)				
	消耗品費	31,500	0	0	32,400
	支払負担金	148,000	202,000	197,000	197,000
	支払助成金	50,000	0	0	0
	その他	3,000	3,696	36,677	6,129

事業の必要性の評価(実施目的の適正性)

盛岡広域の知名度を高め観光振興を通じて地域の活性化を図るためロケの誘致や優良土産品の生産を奨励するものであるから実施目的は適正である。
観光土産品の推奨について支援することは、優れた観光土産品の発掘や観光振興につながるため、実施目的は適正である。
また、土産品推奨には全国・県の推奨審査会への参加が最も効果的であることから、本事業の実施は最も有効な手段と言える。

役割分担の適正性の評価

当協会は、盛岡広域圏のロケ地情報を迅速に提供し、現地とも情報共有、支援を行うことができるネットワークや賛助会員への情報提供のノウハウを有していることから協会が実施する事業として適正である。
観光土産品推奨において、賛助会員へ出品案内・推薦を行っていることから協会が実施する事業として適正である。(※平成28年度においては推奨終了の旨を推奨品のある会社(賛助会員)に書面で通知した)

事業の有効性の評価

盛岡広域圏でのロケ件数が毎年安定しているほか、ロケ地の問い合わせ、下見、撮影がコンスタントにあることから意図した成果が上がっている。また、広域圏内で情報共有を図ることで幅広い情報提供ができる。
観光土産品の推奨件数は、平成29年12月末日で推奨終了につき0件(※推奨期間平成28年12月31日までの推奨品:3社8件、推奨期間平成29年12月31日までの推奨品2社8件あり)。

経費の評価

いずれの事業も最低限の経費と人員で実施しており、コストの効率性は高い。

今後の取組み方針(課題の解決策)

引続き事業を展開するとともに最新の情報収集に注力する。

観光コンベンション部長・総務部長意見

FC事業について、日頃からロケ地の情報収集や広域市町との情報交換を行い、問い合わせ時にはフレッシュな情報を提供できるよう準備しておくことが重要である。また、観光土産品の推奨制度について引続きPRに努めることと引き続きエキストラの募集にも務めること。

平成28年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成29年10月31日
評価担当者職・氏名	-

事業名	7 観光客受入体制整備事業					
事業の目的	盛岡駅を利用する国内外の観光客や学会等で来盛された方に、盛岡広域圏を中心とした北東北全般の観光案内を行う。					
事業の内容	盛岡駅構内南口のいわて・盛岡広域観光センターにおいて、岩手、青森、秋田各県のパンフレットの提供及び具体的な観光案内や宿泊施設の紹介を行い、来県者の利便に供する。					
事業の必要性	盛岡駅を利用する観光客等の利便に供する本事業は、県内及び青森県・秋田県への誘客促進と周遊観光への誘導、リピータの確保に必要な事業である。					
成果指標	対 象	いわて・盛岡広域センター対応者数				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常費用(円) (人件費、賃金、福利を除く)	経常費用計 (内訳)	34,238人	28,392人	27,142人	37,299人	
	通信運搬費	807,066	838,434	910,674	820,287	
	光熱水費	220,583	212,610	213,048	188,304	
	賃借料	339,235	370,851	327,229	301,706	
	その他	119,689	135,157	206,652	82,505	
		127,559	119,816	163,745	247,772	

事業の必要性の評価(実施目的の適正性)

利用者の利便性を考慮すれば、当該箇所への案内所の設置は必須。急増する訪日外国人観光客に対し、盛岡市内を筆頭として北東北全体の案内に加え、二次交通や時宜に即した情報提供を確実にしており、盛岡の印象を左右する重要な事業である。

役割分担の適正性の評価

情報収集とスキルの蓄積や外国語対応等を考慮すれば、当協会が実施団体としては最適である。北東北の観光の拠点・結節点として、広域周遊観光に対する精度・鮮度の高い情報提供を行っている。旅行者の高齢化・興味の細分化については、より細やかな情報収集のため関係各所の協力体制を強化したい。

事業の有効性の評価

案内内容の細やかさや外国人観光客への広範なケア、生活情報を含めた情報提供等有効な業務を行い来盛者の利益に供していることから、意図した成果が上がっている。特にも外国人の対応については県内でも突出した対応数であり、周辺地域への広域流動の一助となっている。

経費の評価

最低限の経費と人員で実施しているので効率性は非常に高い。また、広範な観光情報への精通や外国人の対応のためには、担当職員の長期的な育成と外国語対応ができる職員の定着化が必要である。従って、人材確保のために人件費を含めた事業運営費の更なる確保が求められる。

今後の取組み方針(課題の解決策)

盛岡広域観光推進には必要不可欠な事業である。どのエリアも観光に力点を置き、日々新たな取り組みをしている状況下、歴史文化のみならず最新の食やイベント・観光スポット等についての広汎な知識を要するため、職員のモチベーションの維持向上と適切なインプットの場面設定が不可欠である。

観光コンベンション部長意見

盛岡駅は北東北の玄関口であり、ここ数年で外国人観光客の急増により一人一人の対応が非常に長くなってきていることから課題である人材の定着化のためには適切な事業運営費の確保が必要と考える。

平成28年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成29年10月31日
評価担当者職・氏名	-

事業名	8 おもてなし観光推進事業					
事業の目的	イベント開催時に盛岡駅前臨時観光案内所を開設し、被災地等の観光情報を提供し、盛岡地域及び沿岸地域への誘客を促進することにより復興支援を行う。					
事業の内容	チャグチャグ馬コ、盛岡さんさ踊り開催時に、盛岡駅前に臨時観光案内所を開設し、被災地等の観光情報を提供するとともに、これまで収集した復興支援に関する情報や県内主要観光イベント等の情報について、ホームページを通じて紹介し、盛岡地域及び沿岸地域への誘客を促進することにより復興支援を行った。					
事業の必要性	沿岸地域復興の継続の意味からも、イベント開催時に臨時観光案内所等にて観光情報・復興にかかる情報を提供し、誘客を図り地域の活性化に継続して努める必要性がある。					
成果指標	対象	北口観光案内所対応者数				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常費用(円) (人件費、賃金、福利を除く)	経常費用計	40,801人	42,050人	71,684人	—	—
	(内訳)	6,599,642	7,115,850	5,665,926	—	—
	旅費交通費	756,150	874,970	1,845,290		
	印刷製本費	2,269,914	2,163,456	917,514		
	賃借料	1,668,497	1,703,948	1,685,990		
	その他	1,905,081	2,373,476	1,217,132		

事業の必要性の評価(実施目的の適正性)

被災地観光コーディネート事業は平成27年度で終了したが、被災県として、従来の観光振興とプラスして防災教育旅行など本県ならではの旅行素材を活用すれば、盛岡及び盛岡を経由した沿岸地域への誘客にもつながる事業であることから実施目的は適切である。

役割分担の適正性の評価

協会は県内の観光情報のほか、県外誘致活動に長けた人材及び観光案内ノウハウを有しており、本事業の実施主体として最適である。

事業の有効性の評価

教育旅行やコンベンションエキスカージョンの目的地として、沿岸を訪れ震災学習をする団体の希望が増加していることから意図した成果が上がっている。

経費の評価

最低限の経費と人員で実施しており、効率性は高い。

今後の取り組み方針(課題の解決策)

被災地支援及び県内の観光振興のため、引続きパンフレット等の観光ツールを提供し事業を展開する。

観光コンベンション部長意見

首都圏等に観光客誘致活動を行う際も被災地の観光情報と防災教育の旅行先としてPR活動を行い、忘れかけられている被災地情報の発信を続け、多くの方々に足を運んでいただくよう努めること。

平成28年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成29年10月31日
評価担当者職・氏名	-

事業名	9 コンベンション誘致支援事業					
事業の目的	国際、全国規模の大会・学会を盛岡及び岩手県内に誘致し、県外からの参加者に対する歓迎・おもてなしや当地の魅力をアピールする支援をし、成功に導くことにより地域経済の活性化に貢献する。					
事業の内容	1 首都圏での国際ミーティング・エキスポ出展、訪問営業等を実施し、大会の主催者に対し盛岡MICE助成金等の助成制度、開催における支援制度のPR等の誘致活動を行う。また、地元主催者と地元関連業者とのマッチングを行うフェアを開催し、地元色豊かな大会を提案し、受入環境、開催意欲の向上を図る誘致活動を行う誘致対策事業 2 ガイドブック、コンベンションバック提供、歓迎看板作製費補助、サポーター派遣、必要備品の貸					
事業の必要性 (この事業を実施するに至った背景)	大会、学会を誘致することは、人的交流を生み、観光振興の後押しをするとともに地域経済の健全な向上と発展に繋がる効果があり、また、医学、学術、文化等公開講座等による一般市民への寄与、エクスカージョン等の全県への波及効果となるため、コンベンション振興を図るものである。					
成果指標	対 象	支援コンベンション参加者数				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		75,260人	106,945人	98,790	51,976	
経常費用(円) (人件費、賃金、福利を除く)	経常費用計	9,548,099	8,752,295	21,206,757	23,986,468	
	(内訳)					
	旅費交通費	1,633,830	2,012,662	510,047	479,634	
	印刷製本費	4,550,520	3,469,546	5,781,578	3,918,726	
	委託費	1,102,387	848,439	1,315,407	935,046	
	その他	2,261,362	2,421,648	13,599,725	18,653,062	

事業の必要性の評価(実施目的の適正性)

コンベンション振興事業を推進することは、高い経済波及効果をもたらすと同時に、都市のブランディング等開催地として都市のイメージアップに効果を発揮し、観光振興にも貢献することになり、もって地域の活性化につながることから実施目的は適切である。

役割分担の適正性の評価

当協会では誘致から支援まで一連で携わり、かつ、専門性を備えた人材、情報ネットワーク、コンベンション推進のノウハウを有していることから、協会が実施すべき事業として適切である。

事業の有効性の評価

盛岡MICE開催支援助成金制度についての問合せが増えていることもあり、誘致に効果が上がっている。

経費の評価

最低限の経費と人員で執行しているので効率性が高いと言える。

今後の取り組み方針(課題の解決策)

首都圏などでの誘致活動を確実に誘致成功に結びつけるうえで、地元関連事業者、団体との協力は必須であり、今後一層「Welcome MICE」の機運を高め、連携を強化し、受入環境の向上を図る。

観光コンベンション部長意見

使いやすく見直した盛岡MICE開催助成金制度だが首都圏などの誘致活動をしている上でまだまだ周知されていないのが現状である。そのためにも誘致活動の強化が必要であり周知、活用を図ること。

平成28年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成29年10月31日
評価担当者職・氏名	-

事業名	10 企画開発情報収集事業					
事業の目的	誘致、支援のために必要な情報について、各種会議、研修会等で収集を行い、新たな誘致活動と郷土の特色を生かした誘致戦略・企画提案に結びつける。					
事業の内容	地元大学や各種団体の大会・学会主催者の開催に関するアンケートを行う。また、国際、全国、東北規模の各種情報収集連絡会等へ参加して開催情報収集するとともにネットワークを広げ、全国他都市の開催環境、支援内容の情報交換を行い、誘致・支援事業の企画開発につなげる。					
事業の必要性	コンベンション誘致のためには、大会などが予定される時期、規模など開催に関する情報、他都市の開催環境などの情報が必要であり、そのため情報収集活動を行うことは不可欠である。					
成果指標	対 象	情報収集活動回数				
		平成25年度 3回	平成26年度 5回	平成27年度 5回	平成28年度 4回	平成29年度
経常費用(円) (人件費、賃金、福利を除く)	経常費用計 (内訳)	509,034	485,630	384,087	505,568	
	旅費交通費	311,060	315,790	233,200	226,710	
	印刷製本費	13,020	0	13,392	0	
	支払負担金	154,000	159,000	133,000	109,500	
	その他	30,954	10,840	4,495	169,358	

事業の必要性の評価(実施目的の適正性)

コンベンション誘致のための開催情報収集活動は必要であることから実施目的は適切である。

役割分担の適正性の評価

誘致のためのノウハウと専門性を有する人材を備えた当協会ならではの事業である。

事業の有効性の評価

国際、全国規模の誘致の為に収集した情報が活かされていることから意図した成果が上がっている。

経費の評価

最低限の経費、人員で運営していることからコストの効率性は高い。

今後の取り組み方針(課題の解決策)

引続き事業を実施するとともに、積極的に情報収集を行い誘致活動に結びつける。

観光コンベンション部長意見

ワークショップ、合同誘致懇談会、5都市会議(宮崎、高松、金沢、静岡、盛岡)、IME2016に参加し、誘致に係わる情報に基づき学会事務局を訪問し盛岡のコンベンション環境の魅力をアピールすること。

平成28年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成29年10月31日
評価担当者職・氏名	-

事業名	11 自主企画事業の展開などによる観光・文化の振興事業					
事業の目的	盛岡を訪れる観光客や市民に自主企画事業を通じ、盛岡広域の観光・文化に興味や関心をもっていただくことにより、観光客の誘致及び交流人口の拡大を図る。					
事業の内容	<p>1. 盛岡市観光文化交流センター(盛岡市から管理指定) さんさ踊りなど郷土芸能の公演、観光客・市民参加の伝統芸能体験講座、盛岡にゆかりのある人物、歴史などを題材とした催事などを行い盛岡広域の観光資源や文化情報を発信する。</p> <p>2. もりおか啄木・賢治青春館(盛岡市から管理指定) 石川啄木、宮沢賢治に関する資料の常設展示を行うとともに、啄木・賢治の青春時代と当時の盛岡の姿について、観光客を含めた多くの方々に新鮮なスタイルで紹介する。また、企画展では盛岡ゆかりの芸術家の作品の展示、さらにコンサートを開催し魅力ある観光資源、文化情報を発信する。</p> <p>3. もりおか歴史文化館(株式会社乃村工藝社と共同で盛岡市から管理指定) 当協会の観光アテンダントが「まちなか情報センター」及び「ミュージアムショップ」において、来館者に盛岡広域の観光、自然、各種観光施設を紹介するなど、同館の受付機能を活用し広く観光案内を実施する。</p>					
事業の必要性	地域社会の健全な発展のためには、地域の観光振興と交流人口の拡大を図る必要があることから、盛岡市から管理指定を受けた観光文化振興施設を拠点として、観光案内を行うとともに、郷土色豊かな自主事業を企画、実施し不特定多数の方々に参加していただく事業を展開するものである。					
成果指標	対 象	①自主事業参加者及び入場者、②もりおか歴史文化館入館者数				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常費用(円) (人件費、賃金、福利を除く)	経常費用計	41,747,780	45,751,470	33,417,666	32,431,636	
	(内訳)					
	光熱水費	6,580,802	7,851,905	5,008,843	4,945,562	
	諸謝金	1,313,092	1,983,457	1,698,536	1,607,716	
	委託費	27,110,324	28,765,295	18,824,651	18,812,509	
	その他	6,743,562	7,150,813	7,885,636	7,065,849	

事業の必要性の評価(実施目的の適正性)	
特色のある自主事業を展開することは、多くの方々に興味をもっていただき観光振興及び交流人口の拡大につながることから実施目的は適切である。	
役割分担の適正性の評価	
当協会では様々な自主事業を企画、運営できるノウハウ、人材、ネットワークを有しており、協会が実施すべき事業として最適である。また、もりおか歴史文化館については、乃村工藝社及び当協会がそれぞれの持つ特性・機能を活用し効果的な運営を行っていることから役割は適正である。	
事業の有効性の評価	
いずれの自主事業も参加者のアンケート内容を見ると好評であり、事業計画及び運営手法が適正であると評価されているとみられる。	
経費の評価	
最低限の経費と人員で実施しておりコストの効率性は高いが更なる改善も必要だと考える。	

今後の取り組み方針(課題の解決策)	
地域の活性化につながり、魅力ある自主事業を展開することにより観光・文化の振興に資するよう引き続き事業を実施する。	

企画管理部主幹・総務部長の意見

- ・ホールの立地環境と特色を活かした事業展開により、ユニーク且つ地域に根差した催事の実施を心がけており、アーティストへの活動の場の提供と、それら高い文化性を双方で共有できるメリットは大きい。
- ・もりおか歴史文化館は、歴史博物館的機能とまちなか観光の拠点として好評を得ていることから、引き続き創意・工夫をもって運営すること。

平成28年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成29年10月31日
評価担当者職・氏名	-

事業名	12 施設の管理運営事業					
事業の目的	観光・文化施設について、観光案内など利用サービスの充実を図るとともに施設の適切な維持管理を行い、施設利用者が快適に過ごせるようにする。					
事業の内容	<p>1. 盛岡市観光文化交流センター(盛岡市から管理指定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光文化情報プラザにおいて、国内外の観光客や修学旅行生等に対し、盛岡広域の観光情報の提供や街歩き観光の魅力を紹介するほか、観光相談・助言を行うなど総合的な観光案内を実施する。また、観光グッズの販売やプレイガイド、ホテル旅館斡旋などを行い利用者の利便に供する。 ・ホール、ギャラリー、会議室等について、貸室業務を行うとともに利用者増に繋がるよう自主事業のPRなどを行う。 ・施設について、効率的で、かつ安全、衛生面に配慮した維持・管理を行う。 <p>2. もりおか啄木・賢治青春館(盛岡市から管理指定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物販コーナーにおいて、石川啄木、宮澤賢治に関する書籍や絵葉書、土産用観光グッズを販売する。 ・観光客等の憩談、休憩場所として喫茶コーナーを管理運営する。 ・施設について、効率的で、かつ安全、衛生面に配慮した維持・管理を行う。 <p>3. 啄木新婚の家(盛岡市から管理委託)</p> <p>市内唯一の武家屋敷という貴重な文化施設として、また市内観光ルートの名所の一つとして適切な管理運営を行う。</p>					
事業の必要性	観光・文化の振興、交流人口の拡大を図り、もって地域の活性化に貢献するため、観光文化施設を活用して観光案内、各種観光情報の発信を行い、利用者の利便に供し誘客促進に努めるものである。					
成果指標	対 象	①盛岡市観光文化交流センター、②もりおか啄木・賢治青春館、③啄木新婚の家の入館者				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		①115,442人 ② 44,732人 ③ 18,333人	①116,785人 ② 42,449人 ③ 18,613人	①116,490人 ② 40,076人 ③ 19,061人	①107,977人 ② 40,362人 ③ 16,819人	
経常費用(円) (人件費、賃金、福利を除く)	経常費用計	37,054,998	34,649,792	35,173,023	36,518,510	
	(内訳)					
	燃料費	980,694	657,099	467,110	555,858	
	光熱水費	7,265,833	6,362,452	6,657,175	6,569,743	
	賃借料	906,672	809,785	552,798	398,043	
	その他	27,901,799	26,820,456	27,495,940	28,994,866	

事業の必要性の評価(実施目的の適正性)
施設利用者の利便に供し、施設の高評価を得ることは誘客の推進につながり、結果、地域の活性化に貢献するため実施目的は適切である。
役割分担の適正性の評価
当協会では様々な観光情報、運営ノウハウ、人材等を有しており、協会が実施べき事業として最適である。
事業の有効性の評価
修学旅行での来館者及びJR等のキャンペーン時期を中心とした来館者の利用が顕著であることから、目的である情報提供等サービスの面で効果を上げている。
経費の評価
最低限の経費と人員で実施しておりコストの効率性は高い。

今後の取り組み方針(課題の解決策)
盛岡市観光文化交流センターは、建築後16年がたっており施設、設備の早急な修繕や更新の必要性が見込まれるほか、もりおか啄木・賢治青春館についても建物の特殊性と経年劣化から修繕箇所が増加していることから、優先度を考慮し計画的な修繕が行われるよう盛岡市に要望する。

企画管理部主幹の意見

- ・施設利用者からの声はおおむね良好であり、今後もこのような運営の継続が望ましいと考える。
- ・経年劣化に伴う施設修繕予算の不足が大きな課題となっており、一部の利用者からの要望に応えかねている。盛岡市所管課と継続的に協議を行うことにより改善を目指したい。

平成28年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成29年10月31日
評価担当者職・氏名	-

事業名	13 収益に関する事業					
事業の目的	盛岡を訪れる観光客及び市民に快適に観光・文化を楽しんでいただくとともに賛助会員及び観光関連団体に観光に関連する各種情報を提供し、観光振興を図ることにより地域の活性化に努める。					
事業の内容	<p>1. 観光グッズ販売事業 盛岡市観光文化交流センターの「観光文化情報プラザ」において、四季折々の盛岡の風景とまつりをデザインした絵葉書やオリジナルグッズを開発、販売することで観光客等に盛岡の魅力を紹介する。</p> <p>2. 第三種旅行業・観光企画事業 「観光文化情報プラザ」において、観光客等の利便性向上及び滞在型観光を推進するため、旅行と連動した滞在型観光について企画、運営する。</p> <p>3. ホテル旅館宿泊斡旋事業 「観光文化情報プラザ」において、観光客等の利便性向上のため、ホテル、旅館の斡旋事業を行う。</p> <p>4. プレイガイド事業 「観光文化情報プラザ」において、各種コンサート、観劇チケットの販売及びチケット印刷業務を行い、市民の文化活動を支援する。また、温泉入浴券、切手、バスカードの販売を行い利用者の利便に供する。</p> <p>5. 接遇研修事業 賛助会員ほか自治体や商工会議所などの観光関連団体の職員を対象として、おもてなしの心を向上させることを目的として接遇研修会を実施する。</p> <p>6. 観光カレンダー作製・配布事業 盛岡の観光情報を掲載した観光カレンダーを作製し、賛助会員、観光関係団体、旅行会社に配布することにより観光情報を宣伝する。</p> <p>7. 推せんの店認定事業 協会の賛助会員のうち、観光客や修学旅行生が安心して利用できる飲食・土産品物産、宿泊施設等の店舗について「推せんの店」として認定し、推せんの店標識を貸与する。</p> <p>8. 芝水園事業 高松芝水園について、釣りを楽しむことによる市民の憩いの場として管理運営する。</p> <p>9. レンタサイクル事業 街なか観光推進のため、観光客や修学旅行生向けにレンタサイクル事業を実施する。</p>					
事業の必要性	<p>盛岡を訪れた観光客や市民に観光関連施設に利便性を感じていただくことは、リピーターを含めた誘客を促進し、観光振興につながる。従って、多くの観光客や修学旅行生、市民が訪れる盛岡市観光文化交流センターにおいて、観光客等が求めるサービスを提供するとともにセンターの利用者の利便に供する必要がある。</p> <p>また、賛助会員及び観光関連団体に対する接遇研修の実施やカレンダーを通じた観光情報の提供も行うことは、人材育成や盛岡に興味をもっていただくことになり、結果、観光振興につながる。なお、本各事業はそれぞれが利益を上げることを性格とする事業であるが、事業規模を考慮してまとめて一事業としたものである。</p>					
成果指標	対 象	①観光文化情報プラザ利用者数 ②接遇研修参加者数 ③推せんの店加盟会員数				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		28,635人	① 27,060人	① 24,000人	① 21,205人	
			② 延177人	② 延150人	② 延104人	
	③ 146件		③ 142件	③ 136件		
経常費用(円) (人件費、賃金、福利を除く)	経常費用計	12,427,716	8,861,415	3,581,145	3,278,635	
	(内訳)					
	消耗品費	286,196	72,013	92,490	109,537	
	印刷製本費	1,171,800	633,538	1,028,975	713,320	
	諸謝金	346,000	756,274	610,400	761,000	
	その他	10,623,720	7,399,590	1,849,280	1,694,778	

事業の必要性の評価(実施目的の適正性)

施設利用者の利便に供し、施設の好評を得ることは誘客の推進につながり、結果、地域の活性化に貢献するため実施目的は適切である。

【5.接遇研修】賛助会員・観光関係者向けの研修は、さらなる接遇向上と観光振興につながるため、実施は適切である。接遇研修は短時間で集中的に接遇を学ぶことができるほか、賛助会員・観光関係者の交流促進となるので適切な手段と言える。

【7.推せんの店】教育旅行等を含む観光客が安心して利用できる各施設を「推せんの店」として顕彰しているものであり、インターネット利用など個人による情報収集方法が多様化している時世においてこそ、こうした協会による推せん制度は必要である。

役割分担の適正性の評価

当協会では様々な観光情報、運営ノウハウ、人材等を有しており、協会が実施すべき事業として最適である。

【5.接遇研修】当協会では賛助会員向けのサービスの一つとして接遇研修を実施しており、協会が実施すべき事業と言える。

事業の有効性の評価

観光文化情報プラザが多くの来訪者に利用され、好評を得ていることから成果が上がっている。

【5.接遇研修】接遇研修には多くの賛助会員や観光関係者が参加し好評を得ている。研修による接遇レベルの向上が、盛岡及び盛岡広域を訪れるリピーターの増加につながる。平成28年度は賛助会員から要望の多かったクレーム対応研修を行い、参加者から好評を得た。

【7.推せんの店】インターネット情報やグルメ本が数多く存在する中において、さらに安心・安全・優良な施設等を推せんして

経費の評価

最低限の経費と人員で実施しており、コストの効率性は高い。

【7.推せんの店】平成28年度の推せんの店認定事業における収支差額は144,949円のプラスであり、協会の収益事業として適切である。

今後の取組み方針(課題の解決策)

観光振興につながる事業を実施することはもとより、今後は収益を上げる企画品などの検討も必要である。

接遇研修事業については、賛助会員・観光関係者等の要望を取り入れながら実施する必要がある。

推せんの店認定事業については、認定を証する標識等の在庫が払底したことから刷新を図りたい。また、認定更新料の納入にかかる手続きについて、賛助会費と合算するなどの効率的な方法を検討する必要がある。

総務部長・企画管理部主幹の意見

施設利用者及び賛助会員からの声はおおむね好評であることから、今後もこのような運営を継続すること。

平成28年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成29年10月31日
評価担当者職・氏名	-

事業名	14 玉山区観光振興事業					
事業の目的	玉山区(玉山地域)の観光資源について、県内外に広く周知し興味をもっていただくことにより誘客を図り観光振興につなげる。					
事業の内容	<p>1. 啄木学級文の京(ふみのみやこ)講座 石川啄木終焉の地である東京都文京区において、啄木に造詣の深いゲストを招いて講演や対談を行うとともに、盛岡市の特産品の販売や観光PRを行う。</p> <p>2. 啄木学級故郷(ふるさと)講座 石川啄木記念館敷地内にある旧洪民尋常小学校において、主に盛岡広域の住民を対象として啄木に造詣の深いゲストを招いての講演会を行う。</p> <p>3. 姫神山やま開き 姫神山において登山の安全祈願、一斉登山、特産品の販売など行い、優れた景観と自然環境をPRし登山客の誘致宣伝を図る。</p>					
事業の必要性	<p>啄木学級については、盛岡を代表する歌人・石川啄木の顕彰を行なうことにより盛岡の観光・文化の振興を図るものである。特に「文の京講座」については、啄木終焉の地である文京区との共催で行っており、首都圏における観光PRに結びつくものであり、「盛岡デー・イン・東京」関連事業に位置づけられている。本事業がきっかけとなって、文京区と盛岡市との間で「石川啄木ゆかりの地」として平成23年に「災害時における相互応援に関する協定」を、平成24年に「地域文化交流に関する協定」を締結するに至った。</p> <p>姫神山やま開きについては、姫神山の優れた山岳美と自然環境を多くの人々にPRし観光振興に結びつけるものであり、盛岡市内唯一の山開き行事として定着していることから、今後も継続して実施することが必要である。</p>					
成果指標	対 象	参加者数:①啄木学級文の京講座,②啄木学級故郷講座,③姫神山やま開き				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	①	329人	① 355人	① 336人	① 337人	①
	②	51人	② 46人	② 56人	② 34人	②
	③	約1,000人	③ 約1,100人	③ 約1,100人	③ 約1,200人	③
経常費用(円) (人件費、賃金、福利を除く)	経常費用計	1,995,886	1,630,214	1,726,866	1,610,207	
	(内訳)					
	旅費交通費	469,280	439,140	465,520	408,240	
	消耗品費	299,308	297,913	306,215	311,570	
	諸謝金	852,542	423,208	483,347	506,630	
その他	374,756	469,953	471,784	383,767		

事業の必要性の評価(実施目的の適正性)

石川啄木や姫神山といった観光資源をPRすることは、観光客の誘致につながるものであり、個々の事業の実施目的は適切であるといえる。しかし、盛岡市・玉山村の合併から10年が経過し、27年度末をもって地域自治区も廃止されたことから、玉山区(玉山地域)という括りでなく盛岡全体の観光振興を図る観点から事業を実施すべきである。

役割分担の適正性の評価

当協会は石川啄木などの地域観光資源を熟知していることから、事業実施主体として適切である。しかし、上記のとおり玉山区(玉山地域)という枠にとらわれず盛岡全体の事業として取り組むことにより、当協会の役割をより効果的に果たすことができると考える。また、啄木学級については、先人顕彰という教育・文化的な側面から石川啄木記念館等の協力が不可欠である。

事業の有効性の評価

啄木学級については毎年多数の参加申込があり、やま開きについても、近年、若年層や女性の参加者が増えており、幅広い層の誘客が図られていることから、意図した効果が上がっているといえる。

経費の評価

最低限の経費と人員で執行しているので効率性は高いといえるが、玉山地域という括りを廃して盛岡全体の観光振興事業として取り組むことにより、更なる効率の向上が期待できる。

今後の取り組み方針(課題の解決策)

個々の事業については今後も継続して実施する必要があるが、啄木や姫神山を玉山地域のみならず盛岡全体の重要な観光資源として捉えて事業に取り組むことにより、成果を更に高めることができるものと考えている。

玉山支所長意見

盛岡全体の観光振興を図る観点から事業を実施することにより、成果の更なる向上が期待できることから、事業実施の枠組みを協会本体が主体的に取り組む事業として再考すべきと考える。